

## 906 警女ヶ岳～大谷山（両神山系） 本部合同

期 日 H25年4月20日(土)  
参加者 支部9名、本部36名、計45名  
費用 4,000円  
コース 大宮 7:40＝小森 11:30－警女ヶ岳南峰  
12:20～13:00－警女ヶ岳北峰 13:20－大  
谷山 13:50－大谷 15:30～16:00＝大宮  
19:00

曇ってはいるものの、下山までは雨の心配もなさそうだ。予報に反し、風もなくそう寒くもない。

ほとんど崩壊状態の狭い林道を、大型バスからマイクロバスに乗り換え、登山口に向かう。登山口といっても目印があるわけでもなし、勿論道もない。「今日の行程、整備された道がない」とリーダーの説明通りだ。総勢45人の大所帯で崩れかけた斜面に取り付く。

かなりの急斜面で、しかも荒れて足元が不安定、そんな道なき道を登っていく。前を歩く人の踏み跡を追いながら黙々と登る。所々にミツバツツジの花が咲き、目を引く。「今日の頑張りどころで一す」とリーダーの応援が聞こえる。小一時間ほどアルバイトをすると、小ピークに上がり傾斜も緩み、伸びきっていたアキレス腱も緩む。更に少し進むと、早くも警女ヶ岳の南峰に到着。

山名板は無い。さほど広くない山頂だが、全員が休めるほどのスペースがあるので、昼食時間を少々取る。すぐ目の前には北峰の頂が見え、手招きされる。北峰へのルートは、いきなりの大下りを鞍部まで行き、登り返す。このあたりから岩尾根の稜線が続く。痩せた尾根でしかも浮石が多い。慎重に歩を進めるが、時々「落」の声が飛ぶ。でも、そんなルートの両側には、今を盛のアカヤシオが彩りを添え、足取りも軽くなる。30分で北峰に至る。

手作りの山名板と水準点のある小ピークだが、何よりもこの頂、アカヤシオの花々に囲まれている。ホッとするような可愛い頂だ。しかし狭いので写真のみでスルー、大谷山へと向かう。依然道らしきものは無いが、このあたり比較的なだらかで、ほっと一息つける。途中の木々の間から狩倉槍ヶ岳の三峰が形良く望める。大谷山はしっかりと三角点があり、今回のような歩行では、現在地確認ができる。

下山はその大谷山の先のピークから尾根を拾って大谷集落

へと向かう。自然林と植林帯の間をどんどん下るがやはり急だ。途中可愛い祠のある場所で小休、警女ヶ岳を眺めるが、警女ヶ岳とはどこから命名されたのか。実に不思議な山名だ。この後も更に傾斜が増し、下山口直前まで斜面との格闘は続く。

登りの急登、痩せた岩尾根とアカヤシオ、下りの、登りより一段ときつい斜面歩きと、変化に富んだ面白い山行であった。また下山後の集落はいたるところで花が咲き、美しい村であったことも特記する。

(S 記)

